

はさま  
廻間遺跡 (本発掘調査B)

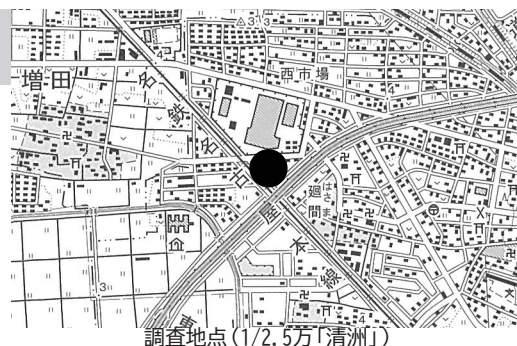
所在地 清須市廻間地内  
(北緯35度13分3秒 東経136度49分42秒)

調査理由 名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線  
工事(側道工事あり)

調査期間 令和7年7月～令和8年3月

調査面積 1,237㎡

担当者 永井宏幸・茶谷 満



**調査の経過** 調査は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)から愛知県県民文化局を通じて委託事業を受けて実施した。調査期間は令和7年7月から令和8年3月で、調査面積は1,237㎡である。

**立地と環境** 調査地は清須市の中央西寄り、稲沢市と接する付近、名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線が交差する付近から北西におよそ50m離れた箇所である。遺跡は清須市域の東側を南北に流れる五条川右岸の沖積低地に立地する。標高は現況で3m前後をはかる。今回の調査は、令和5年度調査(23A区)の北西側に隣接する。調査地の現況は住宅地および商業・工業用地であり、隣接する住宅等の埋設管や生活導線、汚染土処理等の関係から、調査区を南東側から25A区～25E区と設定し、それぞれ2～6分割で調査を実施した。

**調査の概要** 廻間遺跡は古墳時代初頭を最盛期とする集落遺跡で、中心となる居住域(東側)と墓域(西側)が展開する。今回の調査区は居住域の北西に位置し、古代以降は居住を示す遺構が乏しくなり、中世頃からは主に耕作地として機能していたと推定される。

これまでの調査および試掘調査の結果から、古代～中世の遺構面、古墳時代前期初頭の遺構面の2面調査を行った。古代～中世に相当する包含層は、およそ風化した花崗岩の粘土～シルトを母材としたやや白い褐色土層で、古墳時代前期初頭の包含層は、およそ有機物を多く含む暗褐色土層である。暗褐色土層の下層は極細粒砂～細粒砂が厚く堆積し、遺物をはじめとして混雑物の入っていない自然堆積層となっている。

25A区はa区、b区に2分割して調査を行った。25Aa区は令和5年度調査(23A区)の北西に接しているが、攪乱のため明確に延長している遺構は確認できなかった。古代～中世の遺構面では焼土遺構とそれに伴うと考えられる土師器片が出土した。古墳時代前期初頭の遺構面ではS字甕を含む土器片がやや多く出土するピットと土坑を数基検出した。

25Ab区では市道に沿って近現代までの湿地状の堆積を確認した。また、宅地の造成に伴う土壌改良により、古代～中世の遺構面で検出した遺構はかなり不定形の土坑状落ち込みとなっていた。古墳時代前期初頭の遺構面ではやや不定形な堅穴建物状の平面を持つ遺構017SKのほか複数の土坑を検出した。017SK埋土からは甕、高杯などがややまとまって出土した。

25B区はa区、b区に2分割して調査を行った。25Ba区では古代～中世に相当する遺構面がほぼ削平されていた。第1面として堅穴建物024SIおよび複数の土坑・ピットを検出した。またその下面においても古墳時代前期初頭のピット群を検出した。25Bb区は浄化槽跡のため、調査区の大半が攪乱となっていた。湧水も激しく、検出が困難であったが、わずかに残っていた古墳時代前期初頭の遺構面で土坑・ピットを4基検出した。

25C区はa～c区に3分割して調査を行った。25Ca区の古代～中世の遺構面では溝跡(036、037、041SD)やピット(038～040SP)を検出した。041SDからは須恵器(短頸壺)や土師器(甕)が出土した。古墳時代前期初頭の遺構面では、土器がまとまって出土した044SXや複数のピットを検出した。包含層からはパレス壺の口縁～肩にかけての破片が出土している。

25Cb区では古代～中世の遺構面においてピットや土坑等を検出した。うち050SKからは播鉢片や鉄釉水注が出土した。下層調査時に確認したところ遺構底面はまだ深くなり、堆積の状況からも井戸と考えられる。このほかにも054SK、056SKの下層確認をしたところいずれも井戸と判明した。056SKの底面には結桶が設置してあることを確認した。時期的には清洲城下町遺跡で主に検出されている井戸と同時期(後期城下町期)に相当すると推測される。古墳時代前期初頭の遺構面では、S字甕が約1個体分出土した土坑055SK、高杯・甕片がまとまって出土した066SKを検出した。

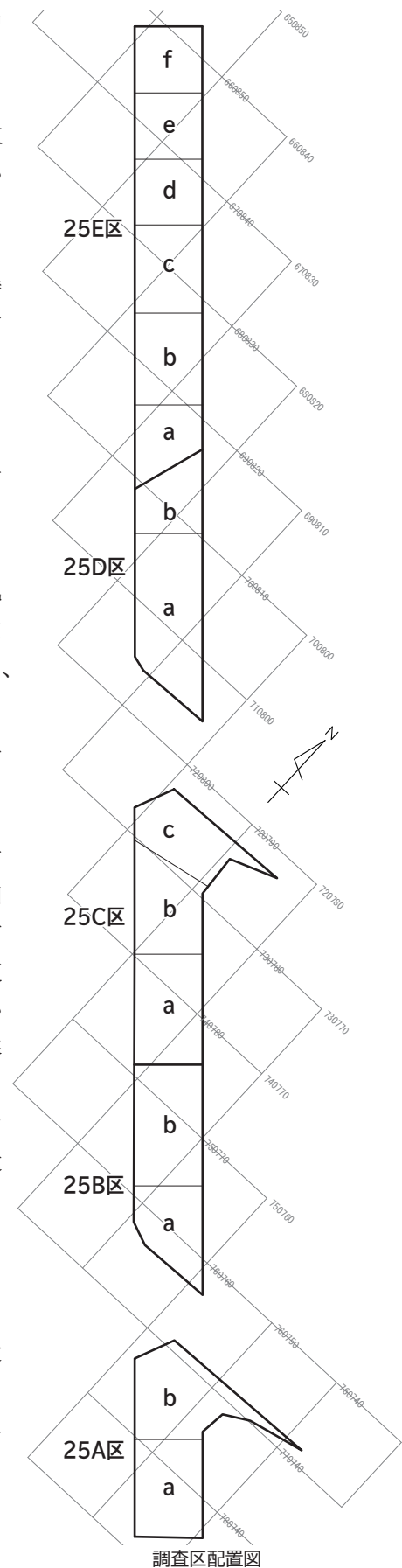
25Cc区は極細粒砂～細粒砂が高い位置で検出された。上層の攪乱を取り除くと、鉄分の沈着の非常に多い、固く締まった砂質土の広がりを確認した。この調査区の北側には中世から続く市道が存在し、それに並行する形で溝、畦畔もしくは道路に付随する遺構067SDを検出した。また固く締まった砂質土を取り除いた面(砂層上面)で土坑2基を検出した。

25D区はa区、b区に2分割して調査を行った。25C区とは市道を隔てた北側にあたる。25Da区は近世以降と考えられる畦畔を南北方向に検出した。それに並行する形で地形の変換点があり、畦畔両側が水田、微高地となっている部分が畑地等と推測される。25Da区南半では井戸を2基検出した。うち075SPではほぼ完形の山茶碗が複数出土した。077SKでは動物と思われる骨片と炭が埋土中層付近から出土した。古墳時代前期初頭の遺構面ではピット1基、土坑1基を検出した。

25Db区では古代～中世の遺構面において、山茶碗などの土器片を含むやや大型のピット088SPを検出した。古墳時代前期初頭の遺構面では、落ち込み状のピット2基・不明遺構1基を検出した。

25E区はa～f区に分けて調査を行った。以前の工場等の造成に伴い、北側にあたるEf区、Ee区の部分のほか、Ea区では遺物包含層が攪乱されており、遺構の検出はできなかった。他の調査区については、古代～中世の遺構面では井戸のほかピットや落ち込み状の遺構を検出し、須恵器・土師器、山茶碗、内耳鍋などが出土している。下層の古墳時代前期初頭の遺構面においては土坑や大型の落ち込みを検出し、土師器の壺・甕等が出土している。

(茶谷 満)





Ab区第2面完掘状況（南東から）



Ba区第1面完掘状況（北西から）



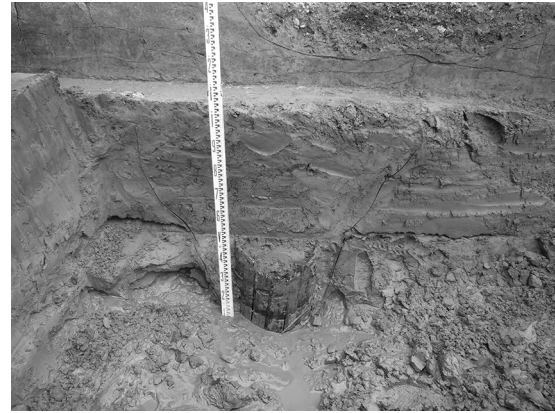
Cb区第2面完掘状況（北西から）



Cb区050SK遺物出土状況（北から）



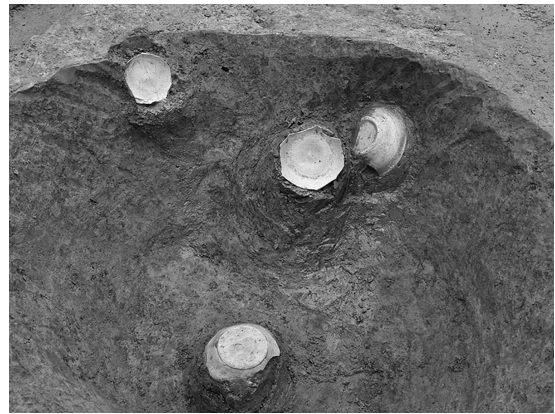
Cb区055SK遺物出土状況（南西から）



Cb区056SK井戸側検出状況（南西から）



Da区第1面完掘状況（北西から）



Da区075SP遺物出土状況（南西から）